

# 大分合同新聞

OITA GODO NEWSPAPER

夜  
60%  
5~13℃  
60%  
5~13℃

## TSMC熊本工場開所

### 政府 半導体供給強化へ

半導体受託生産の世界最大手、台湾積体回路製造(TSMC)は24日、熊本県菊陽町に建てた国内初となる第1工場の開所式を開いた。10~12月期の量産開始に向け、生産ラインの立ち上げを急ぐ。年内に建設を始める第2工場と合わせ、政府が約1兆2千億円を助成する国家プロジェクト。先端半導体のサプライチェーン(供給網)の強靱化に加え、台湾有事も見据えて経済安全保障の強化を急ぐ。(4面に関連記事)

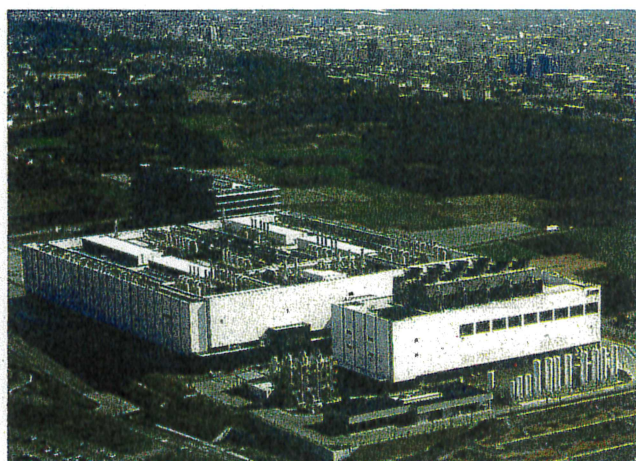
岸田文雄首相は式典にビデオメッセージを寄せ「半導体はデジタル化と脱炭素化に必要不可欠なテクノロジーだ」と指摘。第2工場にも財政支援を決めたと表明した。斎藤健経済産業相によると、補助額は最大7320億円になる。

TSMC創業者の張忠謀



工場を運営するTSMC子会社のJASMに出資するソニーグループの吉田憲一郎会長兼最高経営責任者(CEO)は「TSMCから学ぶことが多い」と語った。JASMへの資本参加を発表したトヨタ自動車の豊田章男会長も駆け付けた。第1工場では、日本企業が製造できない回路線幅12

〜28ナノ(ナノは10億分の1)相当のロジック半導体を生産。コンピュータの「頭脳」となる製品で、国内メーカーの画像センサーや自動車向けに供給する。投資額は約86億(現在の)為替レートで約1兆2900億円。政府は最大4760億円を補助する。台湾からの出向者約400人を含む約1700人が働く予定で、地域経済への影響も大きい。



熊本県菊陽町に建設された台湾積体回路製造(TSMC)の第1工場=12日

## 巨大市場参入の好機

### 技術力底上げ課題に

#### 県内企業

TSMCが隣県・熊本でスタートを切った。大分県内の半導体関連企業も、設備投資や産業集積が加速する巨大市場に参入し、発展につなげる好機となる。

「日本の半導体の復活に向けた大切な日。出席できて本当に光栄だ。24日、大分市一本のテック・エンジニアリングの日野浩三社長(62)は感慨深げに語った。



開所したTSMC熊本第1工場の前で、取材に応じてテック・エンジニアリング(大分市)の日野浩三社長(24日、熊本県菊陽町、撮影・吉良政宣)

た。ソニーやトヨタといった大手企業トップらがそろった開所式に招待された。テック社は半導体製造装置回りの電気・配線工を手がける。創業以来、約30年にわたり磨いてきた専門技術を買われ、TSMCから第1工場の仕事を直接受注することに成功。売上高は二十数億円を見込む。日野氏は「社員の頑張りのおかげ。第2工場の仕事も取りたい」と意気込む。九州経済産業局によると、大分県内の半導体関連の事業所数は133で、福岡、熊本に次いで3番目。半導体回路が形成されたウエハー(基板)を切り分けて完成品に仕上げたり、テストや解析したりする「後工程」の事業者が多いのが特徴だ。TSMCは「前

工程」を手がける企業で、商機拡大が期待される。だが、TSMCのサプライチェーン(供給網)には台湾企業が食い込むなど競争は激しく、取引にこき着けるのは容易ではない。大分県内の関連の産官学でつくる「県LSIクラスター形成推進会議」は、世界先端のニーズに 대응する技術力の底上げが課題になると指摘する。企画委員長を務め、東芝グループなどと取引する商社ススキ(大分市毛井)の鈴木清己社長(59)は「品質やスピード、サイバーセキュリティ対策など、あらゆる面で求められるレベルは高くなる。グローバルな視点で、競争力を磨くことが大切だ」と強調した。(吉良政宣)